

2024 年度
(令和 6 年度)
事業報告書
2024. 4. ~2025. 3

公益財団法人 神経研究所

公益財団法人 神経研究所

2024年度事業報告書

I. 理事会・評議員会の主な決議・承認・報告事項

1. 2024年6月12日(水) 定時理事会

- 1) 2023年度事業報告書の審議及び承認
- 2) 2023年度決算報告書及び監査報告の審議及び承認
- 3) 任期満了する理事 加藤進昌氏の重任について定時評議員会へ推薦することを決議
- 4) 任期満了する理事 福原俊明氏の重任について定時評議員会へ推薦することを決議
- 5) 任期満了する理事 鈴木二郎氏の重任について定時評議員会へ推薦することを決議
- 6) 代表理事加藤進昌氏の選任について審議及び承認
- 7) 任期満了する監事 宮岡等氏の重任について定時評議員会へ推薦することを決議
- 8) 新病院での新規事業及び新規機能について審議及び承認
- 9) 障害福祉サービス事業等の定款表記について審議及び承認
- 10) 就業規則等の変更について審議及び承認
- 11) 定時評議員会の招集及び開催について

2. 2024年6月27日(木) 定時評議員会

- 1) 2023年度事業報告書の審議及び承認
- 2) 2023年度決算報告書及び監査報告の審議及び承認
- 3) 理事会より再任推薦の理事 加藤進昌氏の審議及び承認
- 4) 理事会より再任推薦の理事 福原俊明氏の審議及び承認
- 5) 理事会より再任推薦の理事 鈴木二郎氏の審議及び承認
- 6) 理事会における代表理事加藤進昌氏選任の審議及び承認
- 7) 理事会より再任推薦の監事 宮岡等氏の審議及び承認
- 8) 任期満了する評議員 樋口輝彦氏の重任について審議及び承認
- 9) 新病院での新規事業及び新規機能について審議及び承認
- 10) 障害福祉サービス事業等の定款表記について審議及び承認
- 11) 就業規則等の変更について審議及び承認

3. 2025年3月5日(水) 定時理事会

- 1) 2025年度事業計画書の審議及び承認
- 2) 2025年度収支予算書の審議及び承認
- 3) 2025年度資金調達及び設備投資の見込みについて審議及び承認
- 4) 監事 碓井憲男氏の任期途中の辞任申し出を評議員会に報告することを審議及び承認
- 5) 監事候補者 斎藤隆氏の選任及び評議員会への推薦について審議及び承認
- 6) 評議員会の招集及び開催について

4. 2025年3月27日(木) 評議員会

- 1) 2025年度事業計画の審議及び承認
- 2) 2025年度収支予算書の審議及び承認
- 3) 2025年度資金調達及び設備投資の見込みについて審議及び承認
- 4) 理事会より監事 碓井憲男氏の任期途中の辞任申し出を審議及び承認
- 5) 理事会より推薦の監事候補者 斎藤隆氏の監事選任の審議及び承認

II. 再開発事業について

令和6年度の再開発関連の事業について

建設業界における建設物価の高騰や職人不足、人件費の高騰などにより、予定工期の竣工が一時危ぶまれたが、無事2025年3月14日、竣工することができた。

それまでに消防検査、建築確認、保健所、都の病院使用許可のための検査を受け、検査済証を含む承認を得た。建築工事のほかに、電子カルテや電話・インターネット・WIFI・デジタルサイネージ（電子掲示）晴和ホールのモバイル会議が可能なプロジェクター・スクリーン設備や家具類等の病院の発注工事を4月1日の病院オープンまでに完了することができた。その間、3月21日、22日内覧会を行い、300人以上の方々にも新病院をお披露目することができた。

建築工事費の清算を行い、新規追加工事や減額のための仕様変更等、最終的に税込み24,310,000円の追加工事とした。なお、施工会社からは加えて契約書条文に記載ある物価高騰による追加工事費の請求に対しては当法人も補助金の減額等を根拠にこれを拒否した。

近代化整備補助金に関しては令和4年度21,030,000円、5年度169,911,000円、6年度197,522,000円（申請）である。

下記に建築概要を挙げる。

住所	東京都新宿区弁天町91番地
主要用途	病院その他の複合施設
病床数	精神一般病床52床、精神療養病床52床
敷地面積	2,619.36 m ²
建築面積	1,825.02 m ²
延べ面積	7,542.16 m ²
主体構造	鉄筋コンクリート造一部鉄骨造
基礎	杭基礎
階数	地下1階(外苑東通りレベル)地上6階
工期	2023年3月15日～2025年3月14日
設計・監理	株式会社岡田新一設計事務所
施工	不二建設株式会社

III. 臨床部

1. 附属晴和病院(小石川東京病院)

1) 入院

2024年度の入院状況は1日平均患者数が48.0人と予算人数の53人を5人下回った。1日平均患者数が50人を上回ったのは6月から8月の3か月のみで、その後は45人から50人弱で推移し、3月は移転準備により42人と失速した。年間平均在院日数は45.7日で前年度の48.6日から3日程度短縮した。精神科としては異例の短さであるが、この背景には、アス

ペルガー症候群などの発達障害を対象とする、2週間及び3週間の検査入院の定着とともに、発達障害患者の約 20%が該当するといわれる睡眠障害の検査入院など、睡眠検査設備を刷新し、新たな診療領域に積極的かつ継続的に取り組んだことが、顕著に表れている。これらの傾向は当院の大きな特色であり、従来の精神科診療とは異なる成果が期待できると考えている。

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
延在院患者数	13,860	15,132	17,094	19,198	17,528
1日平均在院患者数	38.0	41.5	46.8	52.5	48.0
平均在院日数	39.7	40.0	41.1	48.6	45.7
1人1日平均単価	20,181	21,261	20,217	18,978	19,836

2) 外来

外来の年間1日平均患者数は141.2人と前年度の135.9人、予算の135.2人から上方で推移したが、新患者数は過去2年度に比べると減少した。これは再診患者の伸びが、新患者数を圧迫する皮肉な結果となっている。しかし、発達障害と睡眠障害の増加傾向は継続しており、統合失調症の減少傾向及びうつ病や神経症圏の患者の漸減傾向の対策として、地域からの紹介を伸ばす努力が必要である。発達障害の中でもADHDの一部の例では、睡眠障害の一種である過眠症を合併することがわかってきた。発達障害と睡眠障害と対象を異にしてスタートした外来であるが、両者が協働して精神科医療の隠れたニーズを掘り当てたということになるが、引き続き、医療に限らず、研究面も含めて発展に努めたい。

2023年1月からスタートした、東京都発達障害者支援委託事業「おとなTOSCA」も3年目に入った。業務内容は発達障害者本人、家族、職場からの電話相談や各行政担当者への指導などを含み、中核医療機関である当法人を含む専門医療機関へのつなぎや、有料の心理相談、法律相談など新病院での新規事業につながる取り組みは、当法人の理念達成に寄与すると確信した。2024年度相談件数は2,270件で、内ASD24.3%、ADHD17.5%など発達障害者等からの相談は全体の約4割、発達障害に似て非なる方からの相談は約6割と、前年度と同様な傾向の統計も出ている。これらをもとに、相談者全ての方が満足できるように、医療や生活の質改善への取り組みを行政と共に構築したいと考えている。

5年目を迎えた訪問診療は2022年度の75件から2023年度は145件、2024年度は171件と安定した成果が出ている。引き続き、引きこもり、睡眠障害、認知機能の低下した患者など、通院が困難な患者を、公的機関や近隣医療機関と連携して、引き受けていきたい。

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
延外来患者数	31,444	33,941	34,466	36,154	36,434
新規患者数	684	713	986	950	777
1日平均患者数	119.6	128.1	129.6	135.9	141.2
1人1日平均単価	5,770	5,848	6,197	6,220	6,305

3) デイケア

2024年度は、月間平均利用者数が504名（前年度比+113%）、平均日当円は113,198円（前年度比+116%）であった。増加の要因については、デイケア利用者のアセスメントを行い、デイケア通所方法について見直しを行ったことが挙げられる。各利用者の目標に合わせ、通所ペースを設定し、スモールステップで頻度を上げていく方法で各個人の目標に到達させていく方法を進めたことで、結果、確実な通所に繋がり、利用者増加に結び付いた結果となっている。リワークコースでは、復職に向けて確実に出勤できる状態にすること、また生活支援コースではデイケア通所に留まるのではなく、就労移行など次のステップにつなぐことが出来、デイケアの治療的役割を十分に提供していくことに繋がりつつある。

今後の課題としては、利用者のリクルートが挙げられる。適切にデイケアを治療的に運営していくと、利用者が目標に向かいステップアップしていくため、結果利用者が少なくなることが生じてしまう。「選ばれるデイケア」作りを進めていくために、当院のデイケアの特色（発達障害対応であることなど）を外部に発信し、企業や就労系の事業所、またデイケアを持たないクリニックなどと情報交換や連携していく必要があると考える。また発達専門プログラムについては、新規の参加者を受け入れていくために、長期の参加者に対してクール性を設けるなど、デイケアが常に循環しながら発展していけるように努めていきたい。

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
ショート・ケア算定回数	2,821	3,115	3,100	3,557	3,493
デイケア算定回数	1,915	1,581	1,845	1,953	2,464

4) 看護部

看護部は「安全管理・感染管理の基本方針の徹底と実践」「接遇を向上させ患者・家族から信頼される看護の提供」「新病院へ安全に移転」を目標として取り組んだ。今年度も年間を通じ地域一般入院料15:1、看護補助者加算30:1、看護補助体制充実加算を算定することができた。年間で常勤1名の採用、1名の退職のみとスタッフは安定している。新病院の移転に向け計画に積極的に参加し、電子カルテの導入に関しても準備を進めていった。次年度は引き続き安全・感染管理の徹底と接遇を向上させいくとともに、新病院がなるべく早期の段階で軌道に乗るよう多職種と協力し努めていく。

5) 実習の受け入れ

(1) 医療相談室

- ・専門学校高崎福祉医療カレッジ：2024年10月1日～10月17日 1名

(2) 心理室

臨床心理士・公認心理師実習（大学院生）

- ・跡見女子大学大学院：2024年5月～8月 1名
- ・駒沢女子大学：2024年4月～9月 1名
- ・聖心女子大学大学院：2024年10月～2025年3月 1名

- ・昭和女子大学大学院：2024年4月～9月 1名
- ・帝京大学大学院：2024年5月～8月 1名
- ・東京女子大学大学院：2024年5月～8月 1名
- ・早稲田大学大学院：2024年8月～11月 1名
公認心理師見学実習（学部生）
- ・東京女子大学学部見学実習：15名

(3) 看護部

- ・東京衛生学園専門学校看護学科：2024年4月～5月（精神看護学実習3クール計18名）
- ・東京女子医科大学看護学部：2024年6月（精神看護学実習2クール計12名）
- ・東京医薬専門学校看護学科：2024年7月～9月（精神看護学実習4クール計24名）
- ・東京工科大学医療保健学部看護学科：
2024年9月～11月（精神看護学実習3クール計15名）
- ・文京学院大学保健医療技術学部看護学科：
2024年10月～2025年1月（精神看護学実習デイケア10名）

2. 附属睡眠呼吸障害クリニック

睡眠呼吸障害クリニックは平成11年11月にわが国で最初に開設したクリニック形式の睡眠医療診療専用施設である。日本睡眠学会の認定医療機関でもあり、主に睡眠呼吸障害、睡眠時無呼吸症候群の診療をしている。他にナルコレプシーなどの過眠症、レム睡眠行動障害、周期性四肢運動障害、レストレスレッグス症候群などの睡眠障害も診療できる体制を整えている。

睡眠時無呼吸症候群は睡眠中の呼吸停止により睡眠の質の低下をきたし、日常生活に多大な影響を与えるのみならず、心血管系、代謝内分泌系への悪影響もある。高血圧、心不全、不整脈、動脈硬化の進行による心筋梗塞・脳梗塞、糖尿病などの罹患率・死亡率が増加することが疫学調査により分かっている。いわゆる生活習慣病と密接な関連がある病態であり睡眠呼吸障害の診療は予防医学の見地からも重要であると考えている。

当クリニックは睡眠医学を専門とする医師、検査技師による診療体制を整えている。患者のみならず他の医療機関からも評価されており、大学病院をはじめとする総合病院、医院などから多くの患者が紹介されている。呼吸器内科、精神科、耳鼻咽喉科を専攻する医師で診療を行い、科をまたがる病態にも対応できる体制をとっている。

従来は睡眠呼吸障害を主に診療していたが、睡眠呼吸障害以外の過眠症、睡眠時随伴症などの診療希望も多くなっているため、これらの疾患も積極的に診療している。

最近是一般の病院、医院などで睡眠時無呼吸症候群の簡易検査が容易に施行可能になっているが、正確な診断と的確な治療をするためには終夜睡眠ポリグラフ検査(PSG)が必要である。当クリニックでは最新式の睡眠ポリグラフィソムノスターシステムによるPSGを多数施行している。治療は主に持続陽圧呼吸療法(CPAP)を用いている。CPAPの治療患者数は日本有数の多さである。

睡眠時無呼吸症候群は高い有病率があるにもかかわらず、未検査・未治療の患者がいまだに多いため、医療関係者・一般の人々に対する啓発活動もおこなう。過眠症に対しては睡眠潜時反復検査(MSLT)が診断に必須であり、当クリニックでも睡眠潜時反復検査を施行している。新規の患者が多く今後は過眠症の患者の比率の増加が予測される。2025年度からは晴和病院の開院にともないPSG、MSLTの検査は晴和病院に移行することになった。協力しながら睡眠障害の診療にあたる。

【2024年度の診療実績】

- ・外来患者数 月間平均 1,169名、年間延べ 14,025名
- ・睡眠時無呼吸症候群の持続陽圧呼吸(CPAP)管理患者数 1,854名
- ・PSG検査(CPAP導入のための検査も含む) 月平均約 48名

IV. 精神神経科学センター

1. 助成事業

公募による助成

(1) 調査研究助成 研究課題等選考委員会（書面）

開催回数：1回

2024年3月18日開催時の申請件数1件 採択1件

①精神疾患分野

申請者 内海 智博（国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所）

課題名「閉塞性睡眠時無呼吸症候群を併発する慢性不眠障害における中枢神経病態と臨床心理症状との関連探索」

(2) 大沼賞（てんかん医療志向若手育成事業）大沼賞選考委員会

2024年6月1日開催時の申請件数 学会参加3件 採択3件

研究助成6件 採択4件

① 学会参加助成3件

申請者①-1 藤 雄一郎（国立精神・神経医療研究センター病院 てんかん診療部）
IACAPAP2024 2024年5月20日～5月24日 ブラジル リオデジャネイロ

申請者①-2 大竹 眞央（東京医科歯科大学大学院 精神行動医科学分野）
American Epilepsy Society Annual Meeting 2024年12月6日～12月10日
アメリカ合衆国 ロサンゼルス

申請者①-3 林 貴啓（国立精神・神経医療研究センター 脳神経外科）
American Epilepsy Society Annual Meeting 2024年12月6日～12月10日
アメリカ合衆国 ロサンゼルス

② 研究助成4件

申請者②-1 此松 和俊（東北大学大学院 医学研究科てんかん学分野）
課題名「深層学習を用いた単チャンネル脳波 density spectral array によるてんかん発作と心因性非てんかん発作の鑑別」

申請者②-2 三苫 良（九州大学大学院 医学研究院 精神病態医学）
課題名「定常反応計測を通じた若年ミオクロニーてんかん患者における感覚情報処理障害の検討」

申請者②-3 鈴木 崇宏（名古屋大学医学部附属病院 脳神経外科）
課題名「脳内ネットワーク可視化によるてんかんの精神症状関連ネットワークの解析」

申請者②-4 久保田 隆文（東北大学大学院 てんかん科）

課題名「先端ゲノムコホートをを用いた AI によるてんかん発生予測モデルの開発」

2. 普及啓発事業

1) 睡眠に関する正しい知識の普及啓発活動

(1) 出張睡眠市民公開講座：実施 13 件、中止 1 件

- ・栃木県足利市 2024 年 6 月 26 日 (水) 健康づくりボランティア 46 人
- ・千葉県香取市 2024 年 7 月 31 日 (水) 市民 25 人
- ・神奈川県藤沢市 2024 年 8 月 22 日 (木) 藤沢市在住・在学・在勤の方 101 人
- ・京都府亀岡市 2024 年 8 月 25 日 (日) 一般市民 100 人
- ・福島県埴町 2024 年 9 月 2 日 (月) 埴町保健推進員 36 人
- ・新潟県三条市 2024 年 11 月 13 日 (水) 三条市民・市内在勤者 40 人
- ・宮城県宮城郡七ヶ浜町 2024 年 11 月 20 日 (水) 健康づくり推進員 41 人、当職員・一般町民 52 人
- ・静岡県島田市 2024 年 12 月 16 日 (月) 市民 49 人
- ・奈良県葛城市 2025 年 1 月 21 日 (火) ボランティア 19 人、職員 2 人
- ・奈良県天理市 2025 年 2 月 14 日 (金) ゲートキーパー養成講座受講者 30 人
- ・埼玉県川越市 2025 年 2 月 5 日 (水) 市民 75 人
- ・長野県軽井沢町 2025 年 2 月 7 日 (金) 保健補導員 20 人
- ・福岡県行橋市 2025 年 3 月 6 日 (木) 一般住民 82 人

(2) 学校訪問型睡眠講座：実施 40 件、中止 1 件

- ・豊田市立土橋小学校 2024 年 5 月 21 日 (火) 児童 291 人、教師 17 人
- ・吉備高原希望中学校 2024 年 6 月 6 日 (木) 生徒 11 人、教師 11 人
- ・吉備高原のびのび小学校 2024 年 6 月 6 日 (木) 児童 9 人、教職員 5 人
- ・高松市立塩江中学校 2024 年 6 月 7 日 生徒 21 人、教師 7 人
- ・鹿児島市立松元小学校 2024 年 6 月 11 日 (火) 保護者 67 人、教員 5 人、学校医 1 人、学校出張医 1 人、学校薬剤師 1 人
- ・本庄市立本庄西中学校 2024 年 6 月 14 日 (金) 生徒 290 人、教職員 20 人、保護者 9 人
- ・浦添市立浦添中学校 2024 年 6 月 19 日 (水) 生徒 725 人、教師 35 人
- ・墨田区立中川小学校 2024 年 6 月 19 日 (水) 児童 80 人、教員 5 人、保護者 6 人
- ・和光高校障教部 2024 年 6 月 19 日 (水) 教員 40 人
- ・庄原市立西城小学校 2024 年 6 月 21 日 (金) 児童 84 人、教師 14 人
- ・筑後市立松原小学校 2024 年 6 月 28 日 (金) 児童 128 人、保護者 50 人、教師 40 人
- ・尼崎市立武庫東中学校 2024 年 7 月 8 日 (月) 生徒約 590 人、教職員約 40 人、保護者 7 人
- ・聖心学園中等教育学校 2024 年 7 月 8 日 (月) 生徒 234 人、保護者 4 人、教師 29 人
- ・相生市立矢野川中学校 2024 年 7 月 9 日 (火) 生徒 52 人、教師 10 人
- ・熊本市立力合中学校 2024 年 7 月 10 日 (水) 生徒 550 人、教職員 30 人、保護者 1 人、公民館職員 2 人
- ・山県市立美山中学校家庭教育学級 2024 年 7 月 10 日 (水) 生徒 267 人、教師 10 人、保護者 8 人
- ・高山村立高山中学校 2024 年 7 月 11 日 (木) 生徒 66 人、教師 16 人、PTA5 人、学校医・関係機関職員 4 人
- ・牧之原市立菅山小学校 2024 年 7 月 12 日 (金) 保護者 90 人
- ・小林市立細野中学校 2024 年 7 月 12 日 (金) 生徒 117 人、教師 15 人、保護者 5 人
- ・戸田市立喜沢中学校 2024 年 7 月 17 日 (水) 生徒 28 人、教員 8 人、学校医 5 人、保護者

- ・稲敷郡養護教諭会 2024年7月29日(月) 養護教諭17人
- ・板柳町学校保健会 2024年7月30日(火) 教員・学校医・学校歯科医・学校薬剤師・町保健師17人
- ・東京都学校保健研究会 2024年8月21日(水) 養護教諭・学校保健関係者242人
- ・伊丹市立瑞穂小学校 2024年9月6日(金) 児童81人、教師4人、保護者30人
- ・日向市立日向中学校 2024年9月17日(火) 生徒260人、教師30人、保護者50人
- ・浜田市立三階小学校 2024年9月19日(木) 児童99人、保護者40人、教職員15人
- ・川口市立高等学校定時制 2024年10月11日(金) 生徒173人、教職員17人
- ・高崎市立榛名中学校 2024年10月17日(木) 生徒132人、保護者5人、教師8人
- ・上板町立松島小学校 2024年10月25日(金) 児童63人、保護者45人、教師6人
- ・各務原市立蘇原第一小学校 10月28日(月) 教師30人
- ・うるま市立南原小学校 2024年11月24日(日) 保護者・教員約30人
- ・春日部市立春日部南中学校 2024年11月29日(金) 生徒444人、児童270人、教員40人、保護者10人
- ・安八郡神戸町立下宮小学校 2024年12月13日(金) 児童97人、教師12人、保護者72人
- ・静岡市立清水小島中学校 2025年1月17日(金) 生徒・教員約120人
- ・越谷市立新方小学校 2025年1月22日(水) 児童34人、教員6人、保護者3人
- ・下呂市立竹原中学校 2025年1月24日(金) 生徒60人、保護者38人、教師10人
- ・学校法人西南学院西南学院小学校 2025年1月29日(水) 保護者35人、教員3人
- ・飯能市立精明小学校 2025年1月30日(木) 児童15人、保護者13人、教員5人
- ・武蔵野市立本宿小学校 2025年2月13日(木) 教師4人、学校医2人、保護者5人、開かれた学校づくり協議委員3人
- ・鴻巣市学校保健会 2025年2月27日(木) 校長4人、保健主事8人、養護教諭23人

(3) 企業訪問型睡眠講座

- ・SOMPO チャレンジド株式会社 2024年10月17日(木) および2024年10月24日(木)
- ・川崎市役所総務企画局人事部労務厚生課 2024年9月11日(水)

(4) 睡眠健康推進機構長賞授与

富山大学名誉教授 神川康子先生へ授与。「ニュースレター」に記事を掲載した。

3. 広報活動

- 1) ニュースレター発行回数：2回
No. 4:2024年8月発行、No. 5:2025年3月発行

V. 研究部

研究部は臨床精神薬理研究室、睡眠学研究室、発達障害研究室の3部門に分けられる。しかし臨床精神薬理研究室は臨床試験を行う部門ではあるが、特に独立して精神薬理学を専門にする医師が現在は在籍していないために、睡眠障害と発達障害に関して臨床試験を行う場合にほぼ限られる。

睡眠学研究については、別法人である「睡眠総合ケアクリニック代々木」で客員研究員が行っている研究実績を紹介するが、晴和病院でも近年は活発に睡眠に関する共同研究を行っており今後は研究報告も増えていくことが期待される。

外来部門でも紹介したように、ADHDと過眠症を合併する症例を対象として、メチルフェニ

データの薬理学的作用機序を探る研究「注意欠如多動性障害の薬物療法の神経基盤の解明」(主任研究者:高橋英彦東京医科歯科大学教授)が2023年度で終了した。「国際脳」が終了してAMEDも模様替えをしている状況であり、今後共同研究などによって、当院での発達障害症例の蓄積を生かした研究が発展していくことを期待したい。令和7年(2025年)度より厚生労働科学研究費補助金(障害者政策総合研究事業)「思春期以降の発達障害者や家族の多様なニーズに対する専門的な相談やプログラム開発に向けた研究」を加藤が代表研究者として採択された。今後3年間にわたって全国の発達障害支援センター機能の均てん化を図ることを目的としている。

1. 睡眠学センター

1) カタスレニア患者における睡眠ポリグラフ所見の検討

睡眠中呼吸時に groaning (うめき) を呈するカタスレニアは、パラソムニアの亜型、閉塞性睡眠時呼吸障害の亜型であるとするなどの病態仮説があるが、決定的な所見は得られていない。本研究ではカタスレニア患者の groaning event (GE) の睡眠段階別、体位別の解析を行うとともに、併存睡眠障害である閉塞性睡眠時無呼吸 (OSA) ならびに歯ぎしりイベントとの関連性について検討した。結果、GE は OSA イベントと近接することは無いものの、睡眠段階 N1 と段階 REM に集中し体位依存性を有するという点で、上気道虚脱性と関連している可能性が推定された。一方、症例の 30% が歯ぎしりイベントと近接して GE を生じており、これらが律動性運動障害のような運動 generator の影響を受けている可能性があると考えられた。

2) パラソムニアオーバーラップ障害の臨床的特徴について

パラソムニアオーバーラップ障害 (POD) は、REM 睡眠行動障害 (RBD) のような筋緊張低下の無い REM 睡眠 (REM without atonia; RWA) に付随した異常行動と NREM 期のパラソムニアが合併した状態であるが、その病態研究は進んでいない。本研究では、POD の半数以上が若年発症であることに注目し、若年発症 POD (POD-Y) と高齢発症 POD (POD-E) , POD-E に年齢のマッチした孤発性 RBD の間で、睡眠ポリグラフ指標、背景指標、 α シヌクレイン関連マーカーを比較した。その結果、POD-Y は他の 2 群に比べて罹病期間が長く、女性の割合が高かった。この群では他の 2 群に比べて RWA の量が少なく、 α シヌクレイノパチーマーカーの陽性率が低かった。しかし、POD-E と i-RBD の間で RWA 量ならびに α シヌクレイノパチーマーカーの違いはなかった。これらから、POD-Y は NREM パラソムニアが長期罹病中に運動成分が REM 期に波及した者であり、POD-E は i-RBD の亜型に近いと考えられた。

3) 睡眠覚醒相後退障害 (DSWPD) の予後に関する一般人口研究

DSWPD は、睡眠スケジュールの障害と内的脱同調による日中機能の障害のために社会適応が悪化する疾患である。われわれは 2021 年に若年一般人口を対象に行った疫学調査で、対象人口の 3.4% が DSWPD スケール (BRIAN) で DSWPD 陽性者が存在することを明らかにした。本研究は 2 年後の同一対象者に対する予後調査であるが、研究対象若年者で DSWPD 陽性者が存在し、前回調査で陽性だった者は QOL ならびに presenteeism 指標が悪化しており、軽快者 (緩和?) でも、QOL と抑うつ症状が残っていることを確認した。また、前回調査時点で夜型化傾向があった者が今回調査で発症していることを明らかにした。本疾患に対する予防と治療介入の重要性が確認された。

4) 覚醒維持検査 (MWT)

MWT 施行中には、完全な睡眠 (N1) に入らないまでも、3 秒以上の短い不全睡眠 (microsleep;MS) が存在する。本研究では、MS の生理学的特性について検討した。MS の発現指数 (単位時間当たりの MS 頻度) は MWT 入眠潜時と逆相関し、MS 潜時も MWT 潜時と相関した。また MS 持続時間が 8 秒以上であることが MWT での入眠の予測因子であることが明らかになった。MWT 潜時、MS 頻度と潜時はエプワース眠気評価尺度によって評価した自覚的な眠気水準とは乖離するが、これらを慎重に評価することで居眠り予防に資すると考えられた。

2. 発達障害研究室

成人の自閉症スペクトラム (Autism spectrum disorder; ASD) を主な対象とする専門外来は 2013 年度に新設し、2024 年度末までの累計初診患者数はおよそ 3,649 名に達している。専門外来と同時に開いたデイケアも順調に推移している。ASD、ADHD 向けプログラムの総登録者は 452 件に達している。2020 年度からはコロナ禍の中であったが、デイケア活動は感染対策を行ったうえで続けた。結果としてコロナによる受診回避は驚くほど少なかった。これは ASD 者が多かったためと考えられる。

発達障害者は入院適応になることは少ないが、心理検査の予約が殺到したために 2~3 週間の検査入院システムを導入した結果、今では月に 2~3 人が入院するようになっている。2024 年度までの総件数は 150 件になっている。個室を使用することもあって、医療収入の増加と平均在院日数の短縮に大いに貢献している。この検査入院では、専属の臨床心理士がほぼ主治医のように担当するのが特徴である。これは今の診療報酬では心理士が入院患者に対応しても医療費にカウントできないことを踏まえて、差額病室代金をそれに充てるという意図が込められている。検査入院する患者のすべてが発達障害であるはずはもちろん無く、神経症やパーソナリティ障害がむしろ多いのが現状であるが、そういう場合にも高率に外来での心理カウンセリング (特別予約診療費: 5,000 円) に誘導できることは、診療上も病院の特色になっている。

デイケアでは、成人期の発達障害者を対象とした専門プログラム (ASD、ADHD) だけでなく、大学生対象の学生プログラム、そして専門プログラム修了者向けピア・サポートプログラムを行っている。また、就労準備性を高めることを目的とした就活講座も展開し、ひきこもり防止や自立を促すための支援を図っている。これらのプログラム・コース参加者は増加傾向にある。

研究面では、2021 年度からスタートした昭和医科大学発達障害医療研究所の五十嵐美紀研究員を代表者とする日本医療研究開発機構 (AMED) の「自閉スペクトラム症 (ASD) 当事者と家族が共に学ぶ自立促進プログラムの開発と包括的支援システムの構築」の研究が終了した。現在準備中である宿泊型自立訓練施設は、この研究成果を実装する試みということが出来る。

こうした日頃の実績から、成人期の発達障害の診療・支援において高度な専門性を有する医療機関 (東京都拠点医療機関) として認められ、2020 年度から東京都が実施する「発達障害専門医療機関ネットワーク構築事業」を受託するに至った。この事業では、都内医療機関の医療従事者に向けた専門人材育成研修の企画・運営と医療機関への個別支援、都内医療機関の調査・情報提供、区部・多摩地区の各地域拠点医療機関との連携を図り、専門医療機関ネットワーク構築に向けた活動を行っている。この活動は 2025 年度以降も継続的に展開する予定である。

2023 年 1 月から、東京都発達障害者支援センター委託事業「おとな TOSCA」をスタート

した。業務内容は 18 歳以上の発達障害者本人、家族、職場からの電話相談や各行政担当者への指導、研修などである。発達障害支援法によって各都道府県には発達障害支援センターの設置が義務付けられており東京都では社会福祉法人嬉泉が 20 年来委託を受けて支援センターを運営してきた。しかし近年は成人の発達障害に関する相談が全体の 7~8 割を占めるようになっていった。そのため支援センターを「成人部門」と「児童部門」にわけて、前者を当法人がもつばら受け持つこととして組織されたものである。当法人の特色である成人発達障害に対する専門外来やショートケアプログラムによる治療的試みが評価されたものといえる。当法人が計画している新・晴和病院の事業にも資することが大きいと期待される。2024 年度には TOSCA に寄せられた直近 1 年間の相談件数は、実人数にして年間 2,270 件であった。これ以外にも、年 3 回実施する地域支援者に向けた支援力向上研修をはじめ、普及啓発のための研修活動も大きな任務であり、その活性化を図っている。

3. 倫理審査委員会 (2024 年 4 月~2025 年 3 月)

開催回数 : 3 回

(2024 年 7 月 1 日 (月)、2024 年 11 月 11 日 (月)、2025 年 3 月 10 日 (月) 開催)

2024 年 7 月 1 日開催時の申請件数

1) 迅速審査で対応した申請への本承認の確認 4 件

① 申請者 志村 哲祥

第 237 号-3

「睡眠覚醒スケジュールと生活の規則性が職業上のアウトカムに与える影響の前向き調査」

② 申請者 大河内 範子

第 239 号-3

「膠原病をもつ子どもとその親の親子並行交流プログラム」に参加した親子の心理的変容」

③ 申請者 井上 雄一

第 240 号-2

「働き方改革が睡眠習慣、精神健康、および仕事の充足感に与える影響」

④ 申請者 川嶋 真紀子

第 241 号-2

「ナルコレプシーおよび特発性過眠症を対象としたオンラインピアサポートグループ介入効果のパイロット研究」

2) 新規提出 なし

3) 再提出

① 申請者 本多 真

第 188 号-5

「過眠を呈する睡眠障害の病態に関与する遺伝子の探索とその機能および末梢血リンパ球の自己抗原特異的増殖反応の研究」

② 申請者 井上 雄一

第 212 号-4

「わが国のナルコレプシーの実態に関する疫学研究」

③ 申請者 幡手 隆雄

第 117 号-12

「成人発達障害に対するデイケアプログラムの効果判定に関する研究」

2024 年 11 月 11 日開催時の申請件数

1) 迅速審査で対応した申請への本承認の確認 3 件

① 申請者 中山 秀章

第 199 号-4

「高度肥満患者の睡眠呼吸障害における日中および夜間高二酸化炭素血症による臨床的違いの件等」

② 申請者 井上 雄一

第 209 号-5

「レストレスレッグス症候群および慢性不眠症における中枢神経感作に関する疫学調査（縦断調査）」

③ 申請者 相澤 直子

第 236 号-3

「発達障害学生向けショートケアプログラムの汎用性に関する探索的検討」

2) 新規提出 なし

3) 再提出

①申請者 大河内 範子

第 242 号-2

「膠原病サポート・グループ参加者の心理的変容」

2025 年 3 月 10 日開催時の申請件数

1) 迅速審査で対応した申請への本承認の確認 0 件

2) 新規提出 なし

3) 再提出 なし

4. 治験審査委員会 (2024 年 4 月～2025 年 3 月まで)

開催回数 : 4 回

- | | | | | |
|---------------------|-------|-----------|-----|--------|
| 1) 2024 年 6 月 27 日 | (木) : | 継続の可否について | 1 件 | 報告 1 件 |
| 2) 2024 年 9 月 26 日 | (木) : | 継続の可否について | 1 件 | |
| 3) 2024 年 11 月 28 日 | (木) : | 継続の可否について | 1 件 | |
| 4) 2025 年 2 月 27 日 | (木) : | 継続の可否について | 1 件 | |